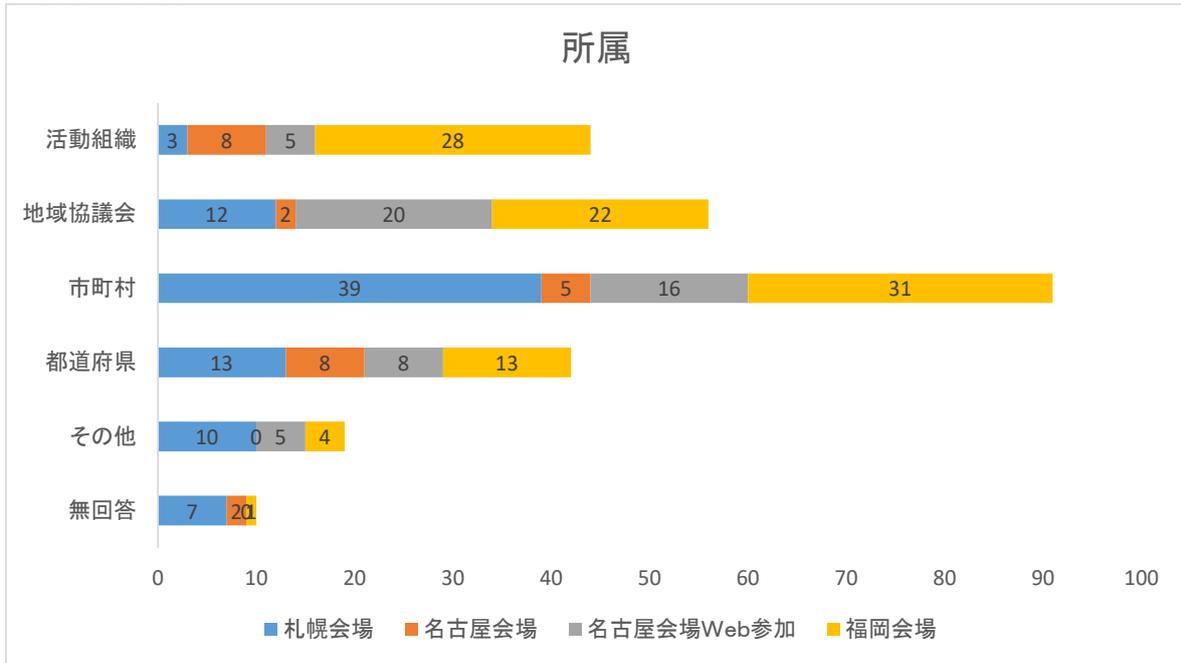


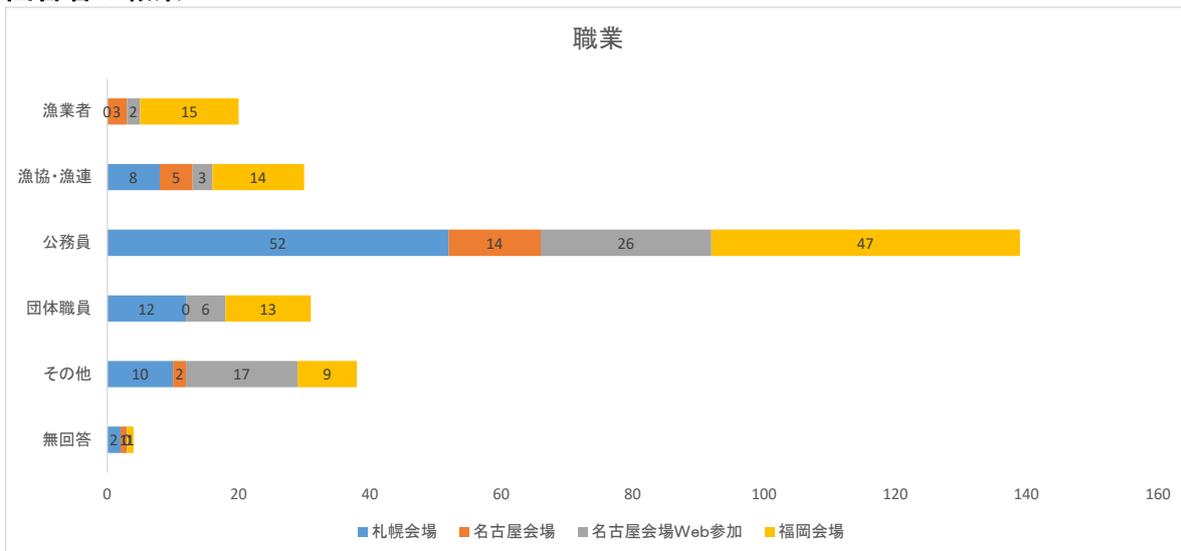
名古屋会場Web参加：北海道7、青森県1、福島県1、茨城県2、千葉県1、東京都2、神奈川県4、福井県2、長野県1、愛知県3、三重県7、奈良県1、京都府2、広島県8、山口県2、長崎県2、大分県1、鹿児島県5、沖縄県2

福岡会場：北海道3、秋田県2、富山県1、三重県2、滋賀県2、島根県2、広島県7、山口県7、福岡県11、佐賀県5、長崎県30、大分県4、宮崎県6、鹿児島県2、沖縄県3、無回答12

回答者の所属



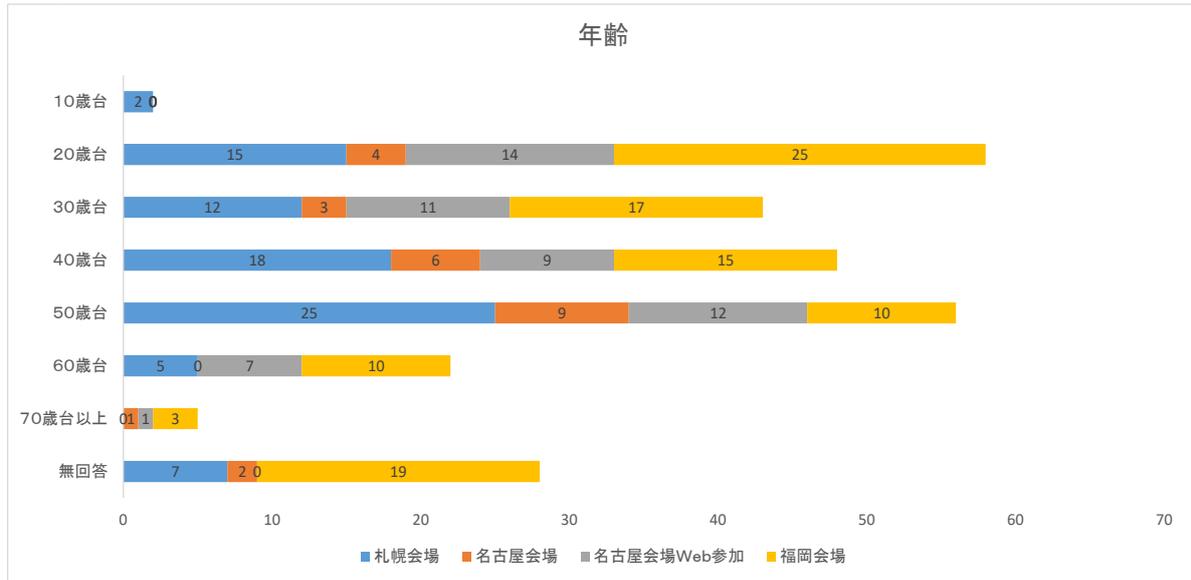
回答者の職業



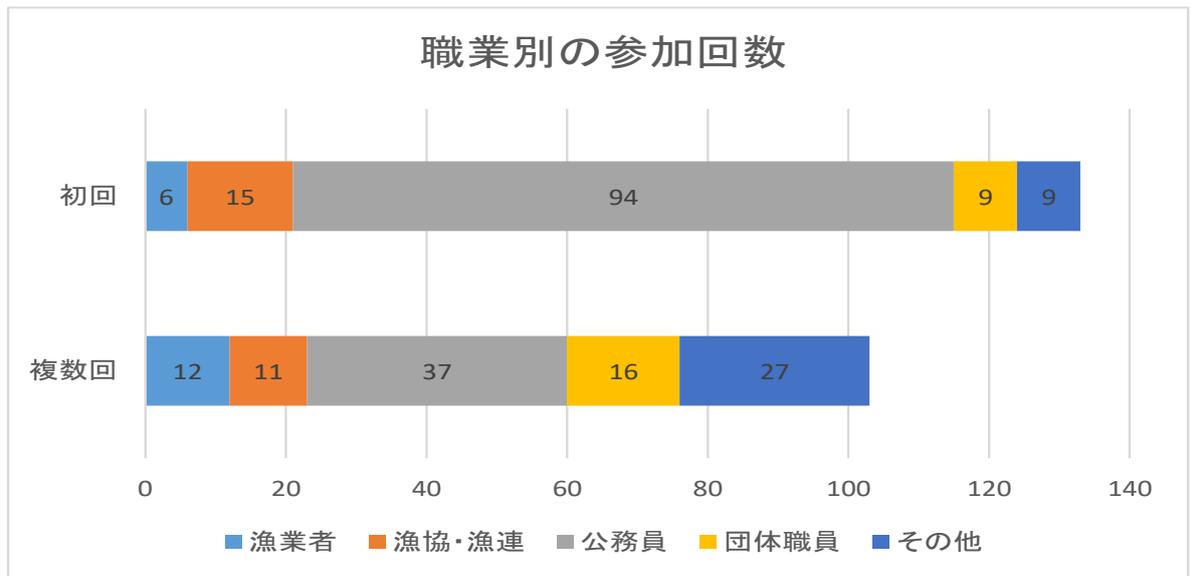
名

漁業者	漁協・漁連	公務員	団体職員	その他	無回答
20	30	139	31	38	4

回答者の年齢

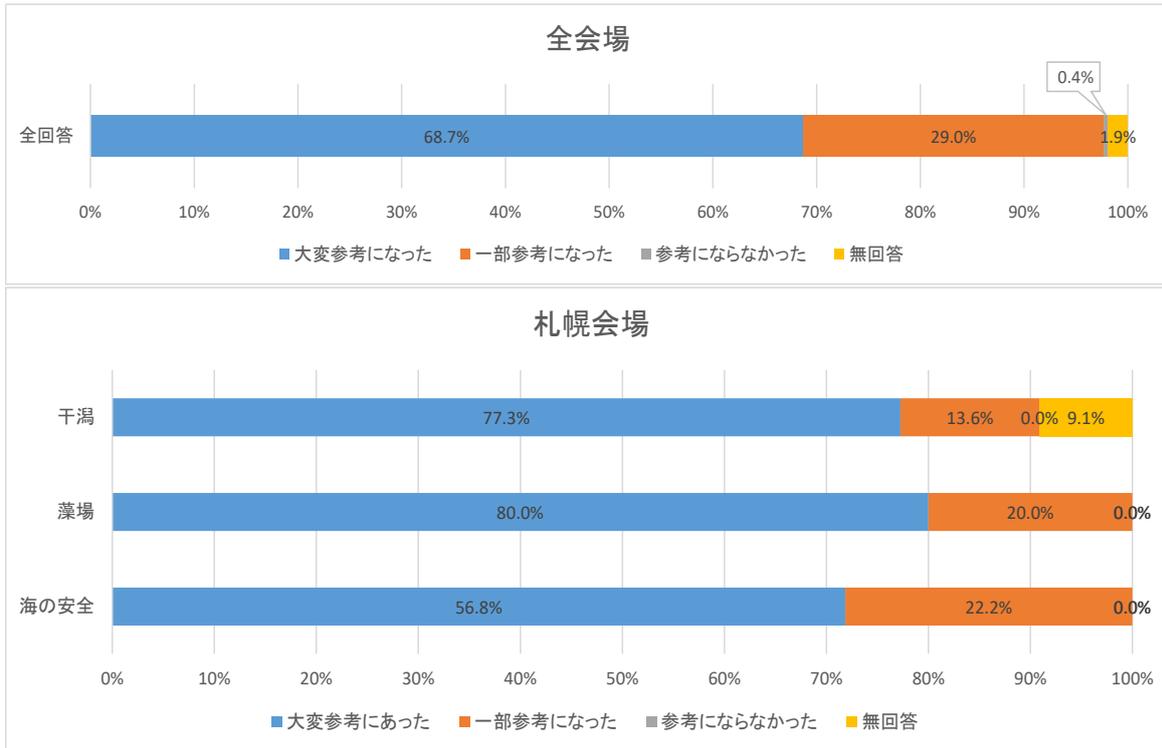


回答者の職業別の参加回数



無回答を除いた回答240件のうち、初回参加は137件で回答数の57.1%であった。また、講習会の参加者のうち最も多い職業である公務員では、公務員の参加のうち初回の割合は71.8%であった。

(1) 内容は今後の活動の参考になりましたか？



【札幌会場】

○干潟部会

大変参考になった点

- ・組織の合併によりマンパワーを増やし、効果に繋げている点
 - ・具体的な事例紹介により事業への理解が深まった
 - ・地域の取組を詳しくすることが出来た
 - ・実際の活動内容を知る機会が少ないため
 - ・具体的な取組状況の把握に加え、取組維持に向けた課題とそれに対する対応状況について理解できた
 - ・普段実績報告書類は目にしているが詳しい内容を知ることが出来た
 - ・書類上でしかみていなかった活動事例の事を詳しく知ることが出来てよかったです
 - ・タマガイの卵塊が1つ4万粒の稚貝は多いそれほど多いとは知らなかった
 - ・モニタリングの必要性並びに干潟保全活動の内容
 - ・実務では得られない情報が数多くありためたになった
 - ・水鳥による食害、他地域の環境
 - ・他組織の様々な工夫を見て当協会も工夫を行いより良いものにしたい
 - ・資源を守るための取組等参考になりました。改めて干潟保全の大切さを認識しました
- 一部参考になった点
- ・地域の取組状況が参考になった
 - ・水鳥による食害は考えたことがなかった

○藻場部会

大変参考になった点

- ・循環サイクルの確立で持続的な取組が出来ている

- ・ウニ殻を再利用し藻場造成
 - ・積丹町と地域性が似ているので参考となった
 - ・ウニ殻の肥料としての活用など
 - ・ウニ殻肥料
 - ・本来廃棄物であるウニ殻を利用した藻場再生の取組はとても画期的であり大いに参考になる
 - ・ウニ殻で肥料を作ったのが斬新で効果が出ていてすごいから
 - ・ウニ殻による循環型再生産の視点
 - ・ウニ殻の新たな活用 各組織の活動状況
 - ・ウニ殻の活用により藻場の造成に効果的な活動が出来ることを知り山雨になった
 - ・美国美しい海づくり協議会の取り組み自体は知っていたがウニ殻利用など詳しい内容は知らなかったため勉強になった。基本的な藻場の役割等も改めて教えてもらえよかった
 - ・ウニ殻の再利用の取組は大変参考になった共有し研究検討したい
 - ・施肥づくりなど海の森づくりを当協議会でも活動したい
 - ・配偶体レベルのサイズへの巻貝類の食害はあまり活動していなかったが影響として大きい
 - ・藻場造成の経済効果
 - ・初めての講習だったのでとても参考になった
 - ・磯焼け対策や地域の水産振興の観点で非常に参考になった
 - ・資源を守るための取組等参考になった。改めて藻場保全の大切さを認識した
 - ・キタムラサキについて表がわかりやすく参考になった
 - ・他地区の活動が参考になった
 - ・実務では得られない内容で大変ためになった
 - ・他市町村の取組は今後の活動への参考となった
 - ・優良事例やコーディネーターのウニ食害に関する説明など今後の参考となる話が聞けた
 - ・他地区の効果的な事例が大変参考になった
 - ・藻場保全がいかにか改めて学ぶことが出来た
 - ・色々な対策法が知れて町に持ち帰り実行に移していきたい
- 一部参考になった
- ・ウニからの再利用の可能性
 - ・ウニ殻の施肥効果
 - ・施肥ロープ
 - ・具体的な事例紹介により事業への理解が深まった

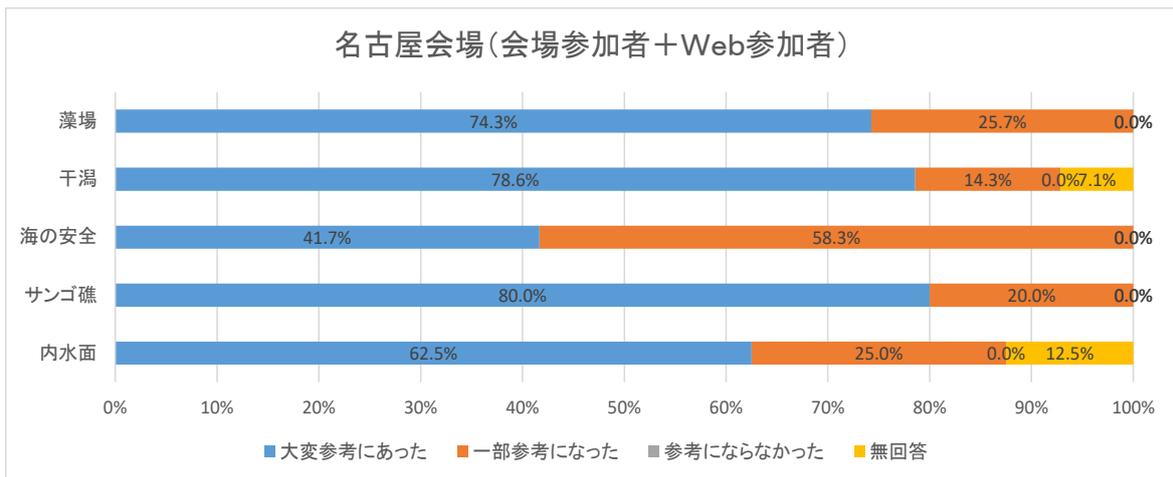
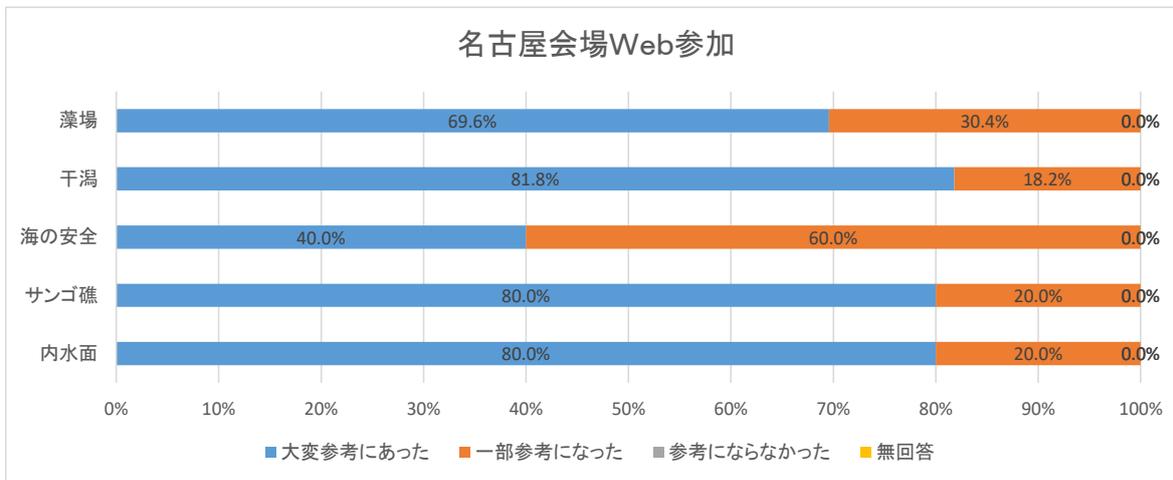
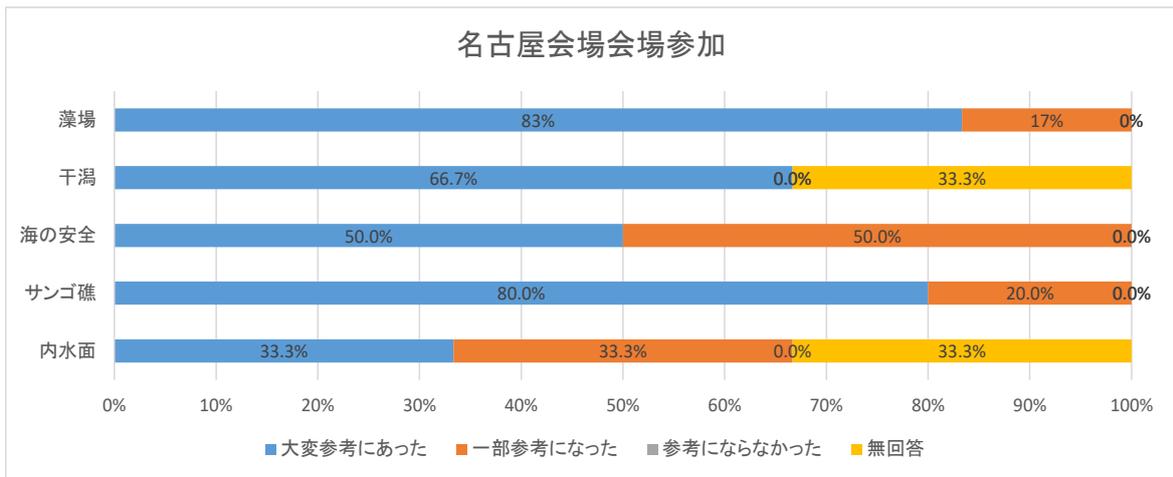
○海の安全確保部会

大変参考になった点

- ・知らないやり方が沢山あり直接話を聞くことができたのでよい経験でした
- ・課題解決への取り組み
- ・水域の監視の取組の詳しい内容が知れてよかった
- ・過去の事例や講習会の様子を知ることが出来てよかった。
- ・書類をどの様に作成しているか聞いてよかった。書類確認をする際に役立てたい
- ・実務だけでは得られない事例を知ることが出来た
- ・監査の効果が目に見えて大変よかった
- ・海の安全確保に係る実施例を見る機会がないため

一部参考になった点

- ・水域監視だけでなく安心安全や情報の共有等しっかりと成果が現れている
- ・自分の地域の監視活動に活用することで体制の再構築が可能と感じた



【名古屋会場】

○藻場部会

大変参考になった点

会場参加者

・他の都道府県がどのような活動をどのように実施しているのか知るきっかけになり新しい情報が得られた

- ・生の声が聞けた
- ・他の活動組織の具体例を聞けるのはありがたい
- ・他地区の活動事例において担当する活動組織では実施されていない教育に関する事例を知ることが出来た
- ・魚類対策が参考になった
- ・種苗投入の際海底にマーキングするなど参考になった
- ・新しい話が聞けたのでためになった
- ・技術的意見交換が出来た
- ・藻場についてよくわかった

W e b 参加者

・北海道の活動組織様の事例とはまた違う内容で、とても参考になりました。地域により状況も活動方法も違う為、他の活動組織様のお話も今後聞いていきたいと思いました。

・水族館で海藻の親が飼われている事について、親が無くなってしまった時に重要となる事のお話を伺い、大変参考になりました。

・江ノ島フィッシャーマンズプロジェクトの詳細な事例紹介において、一度海岸に打ち寄せられて日の浅い海藻を母藻として藻場造成が可能であること、及び水族館等の外部組織と協力することによる積極的な藻場再生・保全への取り組みを知ることができたため。

・普段聞けなかった他県での取り組み事例・実績等を具体的に聞くことができました。

- ・各地域の取り組みや課題が参考になった
- ・事例等を聞いて制度に対する理解が深まった
- ・中嶋コーディネーター、事例紹介のあった江ノ島フィッシャーマンズプロジェクトの活動例の説明も現状の把握と取組に対する効果検証がなされており説得力がありました。また、グループの構成員の方々の主体的な活動が素晴らしく、本市の活動グループについてもこのようなグループに近づけていければと感じたため

・ウニ駆除については、徹底的にやらないと効果が出ないことがよく分かった。

- ・情報収集のため
- ・こちらの地域でも同様の取り組みを行っているから
- ・藻場の保全のお話でウニ対策、魚対策、タネ対策それぞれ知見を得た
- ・各組織の自己評価でも成果があまり見られない状況となっていたなかで、流れ藻を活用した母藻設置が有効であるとの有用な知見を得られた。ぜひ各組織に情報提供したい。
- ・今年度、藻場保全の活動を行う組織がある。西日本向けという話もあったので興味深かった。

・今後藻場造成を行う可能性があるため。

- ・地元で同様の取り組みを実施しているため
- ・食害生物の駆除について、具体的な手法の話が聞けたため

一部参考になった点

会場参加者

- ・ウニ駆除の方法や時期、母藻設置タネ付けについて参考になった
- ・景観被度について 藻場でも海藻と海草の違いがあった

W e b 参加者

- ・磯枯れの影響を受けているが、まだ実践的な取り組みを実施していないため。

- ・地域の環境の違い
- ・スポアバッグではなく敷設する方法は面白そう。
- ・多様な主体の参加について参考になりました。
- ・景観被度の記録方法
- ・本県中部海域において食害（アイゴ）が発生しているため。

○干潟部会

大変参考になった点

会場参加者

- ・美浜町の取組を体系的に聞くことが出来た

Web参加者

- ・新しく知れたことが多かったため
- ・地元ではミズグモの被害等をほとんど聞かないので勉強になった。また、廃棄物の商品化等優良事例も大変参考になった。
- ・多面的では販売する事が出来ないが、他プロジェクトとの連携により廃棄物を活用して利益を得る事も出来るという事が分かりました。
- ・活動事例の中で、除去対象の生物を商品化するという取組を知り、とても興味深い活動だと感じました。
- ・未利用資源の開発の事例が大変参考になった
- ・新しい活動を知れた
- ・吉田コーディネーターによる干潟の保全の講義において、アサリの技術のレビューや生物除去の新たな脅威としてのカイヤドリグモの紹介があり、新たな知見を得ることができたため
- ・被覆網への海藻付着に悩まされていたため、対策案が得られた
- ・本県活動組織は干潟保全を目的とするものが多い。またホトトギス貝に悩まされている現状があるので、興味深かった。

一部参考になった点

Web参加者

- ・活用できそうな内容が少なかったため。また、商品化・ブランド化はハードルが高そうでした。

○海の安全確保部会

大変参考になった点

Web参加者

- ・他地域の事例を知ることが出来て良かったです。
- ・無線があっても届かない所がある事を知りました。
- ・海難救助訓練のプログラム内容が非常に参考になりました。
- ・水域監視メニューにおいて、海難訓練などを地域ぐるみ実施できている活動組織があることを知れたため。

一部参考になった点

会場参加者

- ・海難に係る各訓練について検討すべき事項の知見が得られた

Web参加者

- ・監視体制の連携（山形）、総合的な訓練（愛南地区）どちらも充実した活動になっており感心した。
- ・災害時に漁業無線が有効であり、防災活動に必要な無線機の配備が補助対象だと知るこ

とができたため。

- ・自然災害への情報
- ・活動の種類

○サンゴ礁部会

大変参考になった点

会場参加者

- ・サンゴの増殖手法
- ・県外での有性生殖の取組 サンゴ礁調査について

Web参加者

- ・事例紹介、特にクラウドファンディングを利用した活動が参考になった。
- ・モニタリングサイト1000など環境省の資料等の紹介は勉強になった
- ・今後活動している組織があるため参考になった

一部参考なった点

会場参加者

- ・クラウドファンディングによる資金獲得について事例を知ることが出来ました

Web参加者

・徳島県の取り組みで、グラスボートで産卵ツアーを企画されるなど外部への広報について参考になった

○内水面部会

大変参考になった点

会場参加者

- ・具体的な取組、課題、活動により改善したい点などを組織の事例で知ることが出来た

Web参加者

- ・他地域の内水面組織の活動に関心があったから
- ・名倉川の多様な連携が参考になった
- ・他県の実例が聞いてよかった
- ・他の組織の活動の大変さとか同様の苦労さが分かった

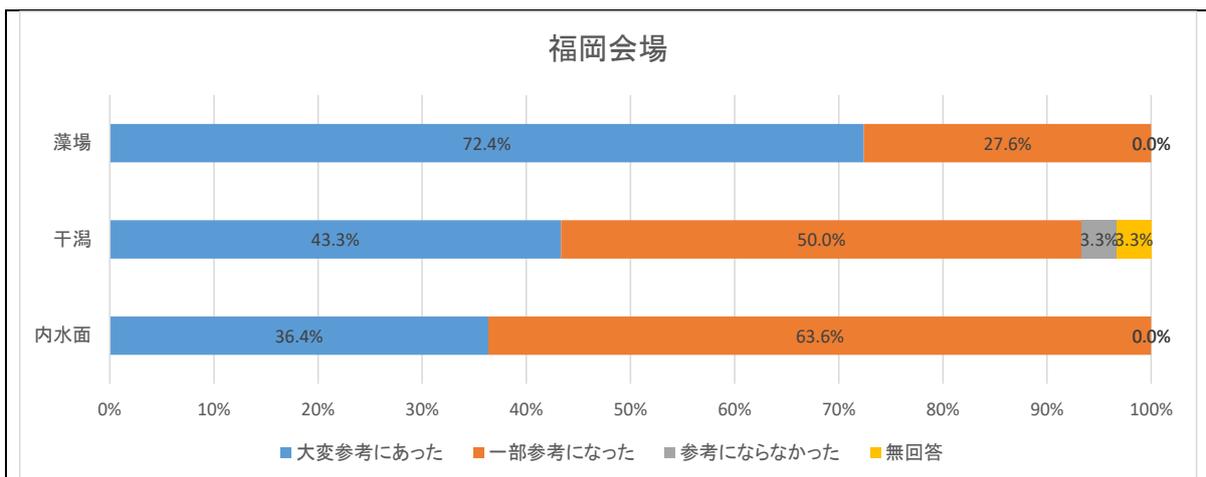
一部参考なった点

会場参加者

- ・高齢化の問題に対し積極的に教育学習の活動を実施されていることが知れました

Web参加者

- ・釣り団体の有志との連携や遊漁券のネット販売とCPUEの活用



【福岡会場】

○藻場部会

大変参考になった点

- ・他の活動内容が聞けてよかった
- ・北海道と状況、活動内容も違う部分がありとても参考になった
- ・各地域の活動状況、またそれによる効果を知ることが出来て活動の参考となった
- ・具体的な活動事例を聞いて現在の取組の参考になった
- ・他の活動組織の活動内容が複数聞けた
- ・他の組織の取組を参考に新たな取組を行っていきたい
- ・どちらの活動組織も色々なアイデアや方法で藻場を守ろうとしており参考になった
- ・他県事例などを聞くことが出来、自県で取り入れられる可能なものがありそうだから
- ・現実的な事例紹介や専門家による詳しい説明が大変参考になった
- ・活動組織の事例紹介がありわかりやすかった
- ・他県の事例や新しい手法の紹介があり参考になった
- ・他の活動組織のことが知れてよかった
- ・コーディネーターの内容がよかった
- ・藻場に対する知識がなかったため
- ・藻場回復について当組織で行っていないこともあり取り入れてみたい
- ・母藻の設置方法がわかりやすかった
- ・磯焼け＝ウニのイメージが強かったが魚類による食害もあるということを初めて知った
- ・海藻の基本情報からモニタリング手法まで学ぶことが出来勉強になった。
- ・イスズミトラップと流れ藻ストッカーの併用、モニタリング方法の景観被度について詳しく知れてよかった。取り入れたいが被度の出し方は人それぞれで差異が出そうなので慎重な作業が必要と思った
- ・意見交換はためになった 母藻設置について
- ・基礎的な知識を再確認できた
- ・コーディネーターの説明がよかった
- ・基礎の勉強になった
- ・害魚被害に悩まされているため先進地を参考にしたい

一部参考になった点

- ・アマモの活動がメインとなっているので活動事例そのものはあまり参考にならなかったが、食害対策網や流れ藻ストッカーの設置など活用できる事例があった
- ・ウニよりも魚類の食害対策について具体例が知りたかった

- ・植食性魚類への対策・駆除方法等
- ・食害生物の除去、駆除の効果がでている
- ・基本活動が決まっているので同じ事をしている時もある していない部分を参考に出来た
- ・被度調査法が現実的な手法に改善された点 イスズミトラップの新たな工夫
- ・ウニ駆除は継続であることが理解できた
- ・藻場の保全に関して新しい技法や捉え方等参考になった
- ・活動により生じた廃棄物の利活用が可能とのことで、当市でも検討していたが、利益が出ると不可と伺っていたので、事業当初の赤が出る時期だけでも見ていただけると助かります
- ・他都市の事例が見られてよかった
- ・他県の事例が多数紹介されたため
- ・具体的な事例を知ることが出来参考になった。漁業士が小学生に藻場の学習会の開催希望が出ているので手引きも活用できたらと思う

○干潟部会

大変参考になった点

- ・他の活動が知れた
- ・他県事例を県の活動に参考にしたい
- ・アサリの減少についての相談が増えてきているので他の活動団体の取組が刺激になった
- ・他の事例が今後の活動に参考になった
- ・コーディネーターの事例紹介が勉強になった。通津アサリグループの活動が大きな成果を上げているので市内他地区の干潟保全活動の参考としたい
- ・独自の取組について聞くことが出来よかった
- ・曾根干潟でアサリ再生活動を行っているので参考になった
- ・他県の情報を得ることが出来た
- ・アサリと淡水のシジミでは異なる部分もあったが、施肥事例や耕耘事例については参考になった
- ・網袋等による稚貝の方法他
- ・事例を知ることが出来た

一部参考になった点

- ・他の事例が参考になった
- ・土留めづくりによって復路への土の流入が少なくということで、現場で応答できると思った
- ・アサリの減少要因や対策について概ね知っていた
- ・本県ではアサリの取組事例はないが、成果が出ている取組があり参考になった
- ・環境や問題が少し異なっていたが、手法や考え方について参考になる部分があった
- ・アサリ資源の回復には稚貝の確保と育成管理が大切であることがわかった
- ・干潟の環境により活動が違う。ホトトギスガイの報告がなかった
- ・耕耘の効果

○内水面部会

大変参考になった点

- ・河川での活動を知る機会があまりないのでとても参考になった
- ・内水面での活動は宮崎ではあまり活発ではないので、放流活動以外での保全活動を参考にしたい
- ・普段は内水面の保全活動に接することがないので非常に勉強になった
- ・市町との協働の重要性、モニタリングのポイントについて把握出来た

一部参考になった点

- ・現在内水面の活動はないが、今後活動を行う場合の参考になった
- ・愛知川の取組、河川の重要性を再認識するとともに有志の訴えから市が動くことにより関心が広がっていくという好事例だと感じた
- ・市としてどう協力して行くことが出来るのかを考えるきっかけとなった

(2) 今回の講習会で得た知識、技術等をどの様に活用するのかお書きください

【札幌会場】

○干潟部会

- ・散布の客土の流出防止の技術展開
- ・貴重な情報なので活動組織への助言・指導に役立てたい
- ・活動成果を地元へ伝え構成員が積極的に参加している活動を地元へ積極的に伝えていく
- ・普及指導業務に活かしていきたい
- ・今後の指導等の業務の参考とさせていただきます
- ・関係者への指導
- ・他の組織と話をする際参考とさせていただきたい
- ・活動組織に伝えたい
- ・今後の活動に導入していきたい
- ・活動報告や取組事例を参考にし、漁業関係者と取り組んでいきたい
- ・活動組織と共有
- ・公共事業での漁場整備に関連する調査・設計に活用したい
- ・新たに着手要望等があった時の参考としたい

○藻場部会

- ・ガンガゼをウニ殻肥料として有効利用できるのではないかと思った
- ・知内ではカキ殻の処分に困っています。カキ殻を再利用する方法を考える参考にしたい
- ・様似町もウニが豊富に獲れるため、その殻の有効利用という点を今後参考にしたい
- ・本来廃棄物であるウニ殻を利用した藻場再生の取組が本町で実戦可能か検討したい
- ・昆布漁協でも出来るか検討
- ・今後地域活性化に役立てたい
- ・現場に持ち帰って今年度ダメなら来年度から活用したい
- ・他地域への技術普及に役立つのでは
- ・活動報告や事例紹介を参考にし漁業関係者と取り組んでいきたい
- ・今後地元と話をする際参考にしたい
- ・地元で行われている活動に対する改善や向上に活用していきたい
- ・普及指導業務に活用したい
- ・藻場造成に取組む漁業者のためにサポートしていく
- ・一つの方法だけでなく合わせて一つの方法にして行ってみる
- ・磯焼け対策の施肥等
- ・活動組織と共有
- ・漁業者が自分達で出来る内容が多かったが中々責任をもって活動してくれない。出来る内容を拠っていけるよう活用したい
- ・今後の指導等の際に参考とさせていただきます。

- ・ウニ殻ロープに取り組んでみようと思った。現在廃棄している駆除したウニの活用方法を再検討したい
- ・今後はブルーカーボンの取組は進んでいくことと思います。藻場の造成を今まで以上に促進させるため今回の講習会の内容を活動組織と共有したいと思います

【名古屋会場】

○藻場部会

会場参加者

- ・ルーティン化している本県の活動に対し今回の講習会で得られた知識を取り入れられるところは取り入れたい
- ・知り合いの活動組織に持ち帰り今後の活動の参考にしてもらう
- ・海藻の再生に活かしたい
- ・将来予想される水温上昇に備えたい
- ・種苗投入の効果がつかめずにいたが、投入した場所にはきちんと生えてくる事例報告もあり今後はGPSでプロットして効果を確認したい
- ・県内の活動組織に共有する
- ・地元の活動組織に伝えたい
- ・藻場を増やしたい

Web参加者

- ・ウニ駆除装置のさらなる改良
- ・磯回復活動に活用する
- ・地元の方々とお話をする際に活用出来ればと思います。
- ・活動組織と共有したい
- ・市内活動組織に情報提供
- ・組織との連携はほとんど協議会が行っているが、他事業の指導等でも活用できる
- ・県内における活動組織の活動報告を確認する際の参考として活用する。
- ・漁業者等実施者の指導等に活用したい
- ・他県の活動事例を本県構成員へ情報提供し、更なる藻場改善に繋げる。
- ・活かせる知識や技術を見極めて適用していきたい。
- ・自分の担当している地域で活かせるか、検討してみる
- ・藻場関連事業における取り組み内容の検討
- ・活動組織への指導の際に参考とする
- ・本市で活動するグループに情報を共有したい。その上で、各グループが取り組めるものがあれば取り入れていきたい
- ・今後の資源管理の参考にしたい
- ・理解増進の取組の参考とする

○干潟部会

会場参加者

- ・施肥やシリコンなどに興味がある
- ・協議会及び活動組織に共有する
- ・地元の活動組織に伝えたい

Web参加者

- ・他の職員と共有します。
- ・県（行政）より広く周知していただく
- ・地元の方々とお話をする際に活用をさせていただければと思います。
- ・アサリの生息地の検討にあたり、近隣市だけでなく、船橋市の活動についても活用したい

- ・知り合いの活動組織に紹介する
- ・被覆網の海藻付着の軽減に活かしたい
- ・干潟等への指導や今後取り組みを考える上で参考にする

○海の安全確保部会

会場参加者

- ・協議会、活動組織に情報共有する
- ・地元の活動組織と何が可能か検討したい協議会及び活動組織に共有する

W e b 参加者

- ・地元の方々とお話する際に活用出来ればと思います
- ・活動組織と今回得た情報を提供したいと思います
- ・活動組織へ水域監視の活動の幅を広げるために助言をしていければと思います
- ・他の職員に共有
- ・災害対策
- ・県（行政）より周知いただく
- ・漁業者が地域の防災において今以上の役割を求められたときに、多面的事業を用いて訓練できる仕組みを漁業者に紹介します。

○サンゴ礁部会

会場参加者

- ・地元の活動組織に希望した資金を得られる事例として紹介したい
- ・グラスボートでの産卵観察はとてもいいと思った
- ・協議会と活動組織にヒビ立て法のサンゴ栽培など情報共有する

W e b 参加者

- ・県（行政）から広く周知していただく
- ・必要に応じて活動組織に共有する
- ・知り合いの活動組織に紹介したい。
- ・地域の活動の指導に活用

○内水面部会

会場参加者

- ・地元の活動組織も児童の課外活動に学校が協力的に関われない時代となり苦労しており行政の協力について検討させていただきます

W e b 参加者

- ・他の職員や活動組織と共有させていただきます
- ・訪問した活動組織に紹介したい
- ・漁獲調査の計算式は難しい。近似計算はこれで良いと言ったものが欲しかった
- ・県（行政）より周知していただく

（３）過去の講習会に参加して、その内容を取り入れた技術や事柄があればお書きください。

【札幌会場】

○干潟部会

- ・教育・学習 大浦先生の指導により地域に合わせた資料づくりと学習会を実施出来た
- ・モニタリング手法の普及、事例紹介を現地に紹介

○藻場部会

- ・教育・学習 大浦先生の指導により地域に合わせた資料づくりと学習会を実施出来た
- ・母藻の設置方法など

・モニタリング手法の普及、事例紹介を現地に紹介

○海の安全確保部会

・海難訓練においては単なる救助講習の受講だけでなく有事の際の連携体制や実際に迅速且つ的確に対処する必要がある事を指導し、そして、全ての活動でライフジャケット着用等安全対策の徹底を呼びかけている

【名古屋会場】

○藻場部会

会場参加者

- ・教育学習で子供達に後日感想文を書いてもらうことにした
- ・害魚駆除の瀬切り網の置き方

W e b 参加者

- ・ガンガゼ・ウニ駆除、アイゴ対策

○干潟部会

W e b 参加者

- ・アサリをナルトビエイやクロダイ等からの食害防止のための被覆網

○サンゴ礁部会

会場参加者

- ・サンゴの移植

○内水面部会

W e b 参加者

- ・河床整備

【福岡会場】

○藻場部会

- ・イスズミトラップ作成
- ・ウニ駆除の時期、方法
- ・広範囲というより部分範囲を明確にすること
- ・景観被度
- ・海藻が生えないなど機能のない商品の存在を漁業者に指導

○干潟部会

- ・アサリの砂利袋設置による結着促進を採用し活動を行っている

（４）今後の講習会について、開催地や時期、部会テーマ等のご要望とその理由をお書きください。

参加者からの要望等は以下のとおり。

<開催地について>

【札幌会場】

- ・札幌以外の道内
- ・札幌での開催を継続してほしい
- ・活動組織がある地域での開催
- ・東北地方での活動を参考にしたいので東北地方
- ・開催地は札幌がよくこの時期も最適
- ・現状の会場（地域、道、北日本、関東、西日本）

【福岡会場】

- ・九州南部や四国
- ・九州内

<開催時期について>

【札幌会場】

- ・開催地は札幌がよくこの時期も最適

【名古屋会場】

Web参加者

- ・この時期活動組織があまり活動しない冬に開催されると参加しやすい

【福岡会場】

- ・活動組織があまり活動しない冬に開催されると参加しやすい
- ・現状の開催時期、部会テーマ等でのよい
- ・引き続き之開催
- ・7月とか8月

<部会のテーマについて>

○干潟部会

【名古屋会場】

会場参加者

- ・海底耕耘、モニタリング手法

【福岡会場】

- ・ホトトギス対策
- ・被覆網の埋没対策

○藻場部会

【名古屋会場】

会場参加者

- ・アマモ

Web参加者

- ・最新の活動報告・実験と結果
- ・毎年、サザエ、トコブシ、アワビを放流しているが効果が得られない。以前はたくさん採れたが、最近は著しく減少している。貝類等の資源はどうすれば回復していくのかといった内容

【福岡会場】

- ・植食性魚類の有効利用
- ・アマモについて
- ・高齢化による人員不足が課題となっているため省力化等の事例があれば提供してほしい
- ・海水温上昇による藻場への影響
- ・ダイビングサークルやボランティア・企業の紹介

<事例紹介について>

○干潟部会

【札幌会場】

- ・散布地区干潟を保全する会が5年に1度ぐらいの頻度で発表しているが厚岸漁協でも活動があり興味深いので今後検討してほしい

【福岡会場】

- ・淡水域での取組事例

○藻場部会

【福岡会場】

- ・長崎県のイスズミ対策の先進事例

○海の安全確保部会

【札幌会場】

- ・東北地方の取組事例
- ・

<講習会について>

【札幌会場】

- ・会計処理、報告書作成等事務処理に係る講習
- ・申請事務手続き等の講習会

【名古屋会場】

W e b 参加者

- ・W e b 併用開催があれば助かります
- ・今後もW e b による講習会の併用を希望します
- ・テキストを事前に配布
- ・資料を事前に公開して欲しい。画面上だけでは内容が把握しづらい。

サンゴ礁部会W e b 参加者

- ・資料を事前に公開しW e b による1回開催

内水面部会W e b 参加者

- ・予算の概要が出る今の時期にW e b 開催のみで良いのでは。事前に資料の公開が必要

【福岡会場】

- ・組織同士が交流できるような内容
- ・W e b 参加が出来るようにして多くの漁業者にも講習会に参加してほしい
- ・先進地の現場視察

(5-1) その他感想・意見等をお書きください

【名古屋会場W e b 参加者】

- ・事前に資料を公開してほしい

【札幌会場】

○藻場部会

- ・口頭の説明だけの部分についてスライドがあるとより理解しやすい（札幌会場干潟部会）

- ・初めて参加したので興味深い話題ばかりだったので一つ一つ少しずつ学んで行きたい
- ・ウニ殻の施肥については日本海側の磯焼け地帯では有効性が高いのではないかと感じた。道東では空ロープを浮かべておくだけで相当付着するのでやると逆にとんでもないことになりそうだ

- ・町として磯焼け対策の何らかの対策をしていきたい
- ・他地区の参考にすべき話や私の活動組織と違う課題等を聞き勉強になった

○海の安全確保部会

- ・サポート専門家の話が長い、事例報告を長くしてほしい
- ・事例紹介者の説明がとても丁寧でわかりやすかった
- ・ドローン（水中含む）の活用事例

【名古屋会場】

○藻場部会

- ・ブルーカーボン関連で将来モニタリング方法は変わる話があったがC O ² 吸収を数字で出すやり方だと難しそうだと専門家の助けが必要と感じた

【福岡会場】

○藻場部会

- ・アサリネットを使用し回収していることにすてきだと感じた
- ・活動の効果の話等が聞けて参考になった
- ・事例紹介等大変興味が深く勉強になった
- ・他の方が「トラップ」について質問されたのでこの事が重要なのかと感じた。詳しく知れたらと思う。
- ・南里コーディネーターの説明がとてもわかりやすく実現可能な意見等でとても勉強になった
- ・時間が不足していると感じた。質疑応答に多くの時間を取ってほしい
- ・自分達が行っていない藻場の保全等をやられていて、数年後の現状写真が見られて意味のある活動の内容が知れてよかった
- ・景観被度の計測は難しいと思った
- ・短時間で内容が盛りだくさんで講習会のペースについて行けない面があった
- ・佐世保市ではブルーカーボン事業を検討しており、保全対象としてアマモを選定している。効果的な活動方法を教えてほしい。アマモを繁茂させるために必要な点や注意点についても教えてほしい

○干潟部会

- ・大変参考になる事例がいくつかあったので今後の参考にしたい。
- ・アサリ保護について水産多面的機能発揮対策事業を利用せずに行っているが規模拡大の時は活用を検討したい
- ・コーディネーターによる一方的な発表より活動グループ間での意見交換などに時間を割いてほしい
- ・アサリ資源の減少要因は複数あるため改善を一元的に行うのは難しいと感じた
- ・干潟保全の目的がアサリの資源回復になっている気がする
- ・もう1件事例発表があってもよかった
- ・マイクを通さずの発言があったが、全てマイクを通すようにしてほしい
- ・講習会については技術的な講習のみで構成されていると思うが、活動記録・日誌の記入や出納管理等事務的な講習も必要だと感じており機会を設けてほしい

○内水面部会

- ・アユの産卵期の配慮やヨシ帯の除草作業など河川状況を確認しながら資源回復に努めていきたい

（５－２）講師に対する質問

名古屋会場藻場部会

広島県水産多面的機能発揮対策協議会大谷氏より

Q：魚の食害防止に有効な手法

A：魚の食害防止に、かつては「音」や「電磁波」で魚を近づけない手法が試験されたことがあります。うまくいっていません。 確実な方法は物理的に「網」で、「海藻」と「魚」を分離することです。 規模により「籠」、「仕切り網」があります。五島市の崎山地区は仕切り網でヒジキ場を再生させたことで有名ですが、年間数百万円の経費がかかっています。 どのような状況か不明ですが、広島は瀬戸内海です。クロダイのノリ食害を想定されているのではないのでしょうか。網は長期間設置すると付着物が問題となりますが、ノリの場合、春までの半年間なので網のメンテナンスは楽であり、向いていると思います。千葉県ではノリ網を網で囲む方式を試験されているようですが、下側に張った網をクロダイが持ち上げて、ノリを食べてしまったと伺っています。浅いヒビ建て漁場であれば、漁場全体を網で仕切る方法もありかと思えます。アサリ稚貝も食べるクロダイは厄介ですね。なぜか判りませんが、増えているようです。今後は、ク

ロダイの資源量を漁業で減らすことが、時間はかかっても、確実な食害対策になっていくのではないかと考えています。

千葉県館山水産事務所中丸氏より

Q：アラメ・カジメ藻場消失と黒潮蛇行の関係について

A：高水温と海藻の関係を見る場合、上限水温以上への暴露時間が重要です。清本節夫さんや村瀬昇さんのお話しでは、九州北岸・山口県域で2013年以降に発生しているアラメ・カジメの凋落は、30℃が数日以上滞留した後に起きていたようです。成体が大規模に消失しても（磯焼けの天秤が右に傾く）、翌年生えてくる幼体が植食性魚類に食べられなければ、アラメ・カジメ場は再生します。黒潮の流れは変えることはできないので、藻場を守るためには植食性魚類の資源量を少しでも減らすことしかできないと考えています。ご存じのように、イセエビだけでなく、アイゴ、ブダイの北上が始まっています（イスズミの動向について情報があれば教えて下さい）。講演会でも少しお話ししましたが、植食性魚類の選択的食害により、アラメ・カジメが数年かけて1本もなくなり、次にノコギリモクなどの多年生ホンダワラ類が数年かけて1本もなくなり、磯から大型海藻藻場が消失する過程を九州沿岸で見えています。その地先の漁業者は藻場が変化してきたことは感じていますが、磯根漁業がなくなるとは考えていません。その衰退の主因である植食性魚類を本気で駆除する気になってくれません。漁業者の方は理詰めで働いています。理屈に納得すれば、自分から動いてくれます。藻場を守っていくためには、基礎データを積み重ねていくしかないと考えています。

下関市農林水産振興部水産振興課峰添氏より

Q：アラメ母藻等の設置について、ネットやスポアバックを海底に固定する手法についてお聞きかせください。現状、本市の活動グループについては、重りをつけて海底に沈める、アラメ種苗の種糸を岩に巻き付ける、基質に種を付着させ沈める等の手法を試してきましたが、波浪の影響で消失することが多々見受けられ、効果が出ていない状況です。杭での固定や水中ボンドの使用なども推奨されているところですが、その他の有効な手法等はありませんでしょうか。

A：私も色々な手法を試し、たくさん失敗してきました。講習会でお話ししましたが、タネ播きとは「タネができる子嚢斑（しのうはん）がで形成されている母藻を海底付近に設置して、タネを周辺の海底に付着させること」です。タネを出す母藻を、タネを出す時期に海底付近に置いておけば、その周りにはタネが確実につきます。これを効率化すればよいのです。今回、事例紹介された江ノ島地区では、ワカメ場づくりに成功しています。具体的には、秋からワカメのロープ養殖を行い、春にタネをだすメカブが大きく育ったら、養殖ロープごとワカメ母藻を海底に固定します。予め海底にU字ボルト（SUS UB M6×10A）を水中ボンドで固定しておき、それにダイバーが結束バンドで養殖ロープを固定します。ワカメは枯れるまでタネを周囲に播きつづけます。アラメ種苗や種苗ブロックなどでもタネが拡散するのは設置の1年後です。それまでに種糸から取れたり、ウニに食べられたりして、減少してしまいます。海面で育てれば、減耗は少なく、アラメが密生してずっしり重いアラメロープができます。ロープが揺れないようU字ボルトに結束しておけば、タネを拡散するだけでなく、ロープのアラメも根を伸ばして海底に付き、アラメ場となります。

名古屋会場干潟部会

南島原市農林水産部水産課永吉氏より

Q：広島の実例紹介であった前潟干潟研究会の種場の選定方法についての資料を頂けないでしょうか？

A：稚貝の分布調査では、48mmのキャップに4mm以上の稚貝の有無が確認され（生息の有無を確認するのみ）、キャップの中に4mmのアサリが見つからないと種場としての価値がないと判断されています。その他資料提供

北海道水産多面的機能発揮対策協議会今井氏より

Q：堅くなった土壌でアサリの活動を行っています。耕耘機を使った耕耘を行いました
が、1人で動かすものが4人掛かりでなければなりません。資料の中に噴流式ジョレイン
がありましたが、堅い場所に効果はあるのでしょうか。また、覆砂についても上手く行か
ず、碎石を覆砂に使う事例が紹介されていましたがこれについても堅い場所での効果は
どうでしょうか。

A：海底耕うんについては、底質の硬さによります。爪の付いた桁で、耕うんしてか
ら、噴流式で再度、耕うんすることも考えられます。碎石覆砂については本来、アサリ
の稚貝から成貝が冬季の波浪によって、洗掘死亡することを防止するために行われたも
ので、硬い底質を柔らかくするといった知見はみられません。なお、碎石の利用につい
ては「碎石を利用したアサリ漁場の造成の手引き 令和3年3月」が水産庁HPで公開さ
れていますので、参考にさせていただければ幸いです。

杵築市農林水産課水産係八田氏より

Q：吉田コーディネーターの話で、アサリの食害防止網へのアオサの付着を軽減するた
め、塗料を塗布している場面があったが、具体的な商品名や網交換の時期、塗布方法な
どを伺いたい

A：一般にホームセンターなどで市販されているもので特定のものではありません。
網交換の時期については、特に設定されているわけではありません。漁業者の判断とな
ります。塗布方法は網を液体につけ、余分な液体を振り払ってから一晩、陰干しをする
といった工程になります。

福岡会場藻場部会

五島市原氏より

Q：魚対策での成功事例があれば教えてほしい。

海の森天王川上氏より

Q：潟上市の離岸堤での藻場増殖はどのようにすればよいのか知りたいので教えてくれ
る人と話がしたい

A：南里コーディネーターに了解いただき直接対応していただいた。

福岡会場干潟部会

佐賀県環境・生態系保全対策地域協議会近藤氏から

Q：テキストP56のアサリ漁獲量の推移ですが北海道は増えているように見えますが
要因をお教え願います

A：北海道だけが15年前とほぼ同水準の漁獲を維持しています。増えている要因はよ
くわかりませんが、漁業者（漁協）が客土などの漁場保全、稚貝や成貝の移植などによ
って資源保持が行われていることが大きいと考えられています。また、過密や餌不足な
どによる冬季の大量へい死を解決するため冬季の陸上育成試験などが行われ、春季の種
苗放流に向けた技術の開発も寄与しているものと考えられます。さらに、全国的なアサ
リ不漁により、道産アサリの需要が高まり、価格が高騰していることもあり、漁獲圧の
高まりも要因の一つと考えられます

広島市アサリ研究会児玉氏より

Q：ケアシェルとは？ケアシェルの販売店？砂の目の粗いのが入手できない場合ケアシ
ェルだけで稚貝が着床するのか？

A：ケアシェルは製造販売会社の名称であり、商品名でもあります。ケアシェル10
0%でも稚貝の着床は可能ですが、コストはかかります。ケアシェルと砂利との比率を
1:1にするなど各活動組織で検討がなされています。砂利100%で行われている活動
組織もあります。

また、講習会内で質問されたケアシェルの単価ですが、平成27年の価格ですが1袋1

0 km大粒（6～9mm）で単価が3,780円、ネットは1.5分目 30cm×60cmで単価が140円との通津アサリグループ鷺尾氏より回答がありました。

北九州市水産課小川氏より

Q：食害防止用のネットに使う液体の詳細を教えてください。

A：被覆網に塗布する液体はシリコン樹脂です。シリコンの撥水効果（物理作用）を利用しますので、薬剤や重金属は含まれていません。シリコン樹脂はホームセンターやネットストアなどで販売されています。商品としては「KURE} 呉工業社製のものなどがあります。なお、塗布作業は換気に留意ください。

福岡会場内水面部会

鹿児島県水産振興課小池氏より

Q：テキストP86の具体的な効果や成果にある「漁協の入漁者数が大幅に増加し黒字転換した」事についてどのくらい増えたのか？また、増えた新規加入者はどんな漁、魚を対象としているのか教えてください

A：この漁協はアユの友釣り、毛ばりや餌釣り、サデ網捕獲を行い一般遊漁者には年券8000円、日券2000円を販売しています。2018年から2021年の4年間の変化を見ると、年券、日券とも毎年増加しており、2021年の販売数の増加率は、2018年の年券5.8倍、日券3.6倍となりました。遊漁者は県内ばかりではなく三重・愛知・京都などからも来るようになりました。また、他にこの組合はアマゴやイワナの溪流魚釣りも遊漁の対象で、アユ漁とあわせて溪流魚釣りの遊漁者も増加しました。

◆名古屋会場Web参加受講理由

・回答数54件の中で47件（87.0%）が「新型コロナウイルスの感染リスク軽減のため」であり、その他の理由7件（13%）は「仕事の都合で会場に行けなかった4件」「遠方であるため」「県外移動が禁止されている」「予算取りしていない」ためであった。複数回答可能な設問であり、9件重複回答があった。全て「新型コロナウイルスの感染リスク軽減のため」に加えての回答で、「予算取りしていない5件」「県外移動が禁止されている2件」「仕事の都合で北海道会場に参加出来なかったから」「育児のための時短勤務を行っており、遠方への出張が難しいため」という理由であった。

◆名古屋会場Web参加者受講形式

・回答数54件の中で46件（85.2%）が個別受講であり、8件（14.8%）が集団受講であった。集団受講の視聴人数は全て2人での受講であった。

2-2. サポート専門家による技術的指導

本事業に取り組む活動組織等を対象として、サポート専門家による技術的な指導を実施したほか、国民向けの参考資料の作成を行った。

(1) サポート専門家の登録

活動組織の指導にあたるサポート専門家の条件は、対策事業に対する豊富な経験や実績を有し、多くの活動組織のニーズに十分対応できる技術を有する者とした。具体的には、平成21年度～24年度環境生態系保全対策及び平成25年度～令和3年度水産多面的機能発揮対策において登録実績のある者に加えて、登録専門家、有識者（検討委員等）、地域協議

会からの推薦があった者とした。登録の有効期間は、登録日から令和5年3月末までとし、登録にあたっては、表2-2-1に示す書式を用意した。

活動組織のニーズは様々であるため、サポート専門家の専門分野を表2-2-2のとおり分類し、可能な限り広範なサポートができるよう務め、常時派遣が可能な体制を整えた。

今年度登録したサポート専門家は、表2-2-3のとおりであり、計64名を登録し、うち、藻場の専門家が49名、干潟等が35名、サンゴ礁が14名、河川・湖沼が18名、教育・学習が21名、清掃活動が3名、ヨシ帯が2名であった。

表2-2-1 サポート専門家登録にあたって整備した書類

種類	内容	備考
専門家登録実施規定	専門家登録の要件と専門家および登録者の責務を規定（図2-3-1参照）	
継続登録申請書	平成25年度以降の前身事業で登録実績のある者が提出	
新規登録申請書	令和4年度から新たに登録する者が提出 （氏名、現住所、勤務先、連絡先、専門分野、経歴等を記載）	推薦書を添付
専門家登録通知書	全国漁業協同組合連合会、全国内水面漁業協同組合連合会の連名で通知	

表2-2-2 サポート専門家の専門分野

分野	対応する活動項目	備考
藻場	藻場の保全・水域の監視	海面
干潟・浅場	干潟等の保全・水域の監視	海面・内水面
ヨシ帯	ヨシ帯の保全	内水面
サンゴ礁	サンゴ礁の保全・水域の監視	海面
河川・湖沼	内水面生態系の維持・保全・改善	内水面
清掃活動	漂流、漂着物、堆積物処理・水域の監視	海面
教育・学習	上記に関連し多面的機能の理解・増進につながる教育・学習に資する取組	海面・内水面

令和4年度 多面的機能発揮活動サポート専門家登録制度実施規程

(目的)

第1条 多面的機能発揮活動サポート専門家登録制度（以下「登録制度」という。）は、活動組織が行う「海の安全確保」、「環境・生態系保全」及びこれらの活動効果を高める「教育・学習」に係る活動（以下、「多面的機能発揮活動」という）をサポートする人材情報を登録するとともに、登録された人材の協力を得ることにより、活動組織による効果的、効率的な活動を推進することを目的とする。

(実施主体)

第2条 本制度の実施主体は、全国漁業協同組合連合会（以下、JF全漁連という）及び全国内水面漁業協同組合連合会（以下、全内漁連という）とする。

(専門家の区分)

第3条 多面的機能発揮活動サポート専門家は、活動組織が抱える技術的な課題をサポートする「技術サポート専門家」と、事業実施に伴う各種事務処理をサポートする「運営サポート専門家」に区分され、それぞれが独立した資格として登録される。

(技術サポート専門家の役割)

第4条 技術サポート専門家は、活動組織が多面的機能発揮活動を実施していく過程で生じる問題に対して技術的なサポートを行うものであり、次に掲げる役割を担うこととする。

- 一 多面的機能発揮活動の計画づくりに関するサポート
- 二 多面的機能発揮活動の手法に関するサポート
- 三 多面的機能発揮活動に係る調査等に関するサポート
- 四 報告書の作成、一般市民の参加・情報公開などの運営・広報に関するサポート

(運営サポート専門家の役割)

第5条 運営サポート専門家は、活動組織が多面的機能発揮活動を実施していく過程で生じる問題に対して事務的なサポートを行うものであり、次に掲げる役割を担うこととする。

- 一 関係機関との調整に関するサポート
- 二 書類の整備状況の確認及び指導

(技術サポート専門家の登録要件)

第6条 技術サポート専門家は、登録を受けるために、次の要件を備えていなければならない。

- 一 多面的機能発揮活動の主旨をよく理解し、全国の活動組織が行う多面的機能発揮活動への協力の意思がある、わが国在住の個人であること。
- 二 「海の安全確保」、「環境・生態系保全」、「教育・学習」のいずれかの活動項目のうち、一項目以上の専門的な知識を有していること。なお、「環境・生態系保全」については、藻場、干潟・浅場、サンゴ礁、ヨシ帯、河川・湖沼環境、清掃活動のいずれかの専門知識を有すること。

図 2-2-1(1) サポート専門家登録実施規定(1)

- 三 上記の多面的機能発揮活動に係わる業務について、十分な実務経験を有すること。
- 四 活動組織の要望及び当会からの派遣依頼に応じ、現地を訪問し、活動組織への技術的サポートを行うことが可能であること。

(運営サポート専門家の登録要件)

- 第7条 運営サポート専門家は、登録を受けるために、次の要件を備えていなければならない。
- 一 多面的機能発揮活動の主旨をよく理解し、全国の活動組織が行う多面的機能発揮活動への協力の意思がある、わが国在住の個人であること。
 - 二 多面的機能発揮活動の事業実施に伴う書類作成や事務処理に精通していること
 - 三 活動組織等の要望及びJF全漁連及び全内漁連からの派遣依頼に応じ、現地を訪問し、活動組織への事務的サポートを行うことが可能であること。

(専門家の責務)

- 第8条 サポート専門家は、次に掲げる責務を有する。
- 一 水産多面的機能に関わる専門的な知識、技術の研鑽に努めること。
 - 二 常に活動組織の視点に立ったサポートに努めること。
 - 三 活動組織へのサポート実施後は、指導の内容等を取りまとめ、海面の活動組織についてはJF全漁連に、内水面の活動組織については全内漁連に、サポート実施後所定の様式により報告すること。
 - 四 サポート活動により知り得た情報等を、他人に漏えいしてはならない。
 - 五 野外作業においては、ヘルメットやライフジャケット等の着用など、十分な安全対策を講ずるとともに、潜水など危険を伴うような活動を行う場合には保険に加入すること。

(登録の申請)

- 第9条 登録制度に登録をしようとする者（以下、「申請者」という。）は、多面的機能発揮活動サポート専門家登録書（様式第1号）をJF全漁連会長及び全内漁連会長に提出しなければならない。
- 2 申請者のうち、平成25年度～平成27年度 水産多面的機能発揮活動サポート推進事業または平成28年度～令和3年度 水産多面的機能発揮対策支援委託事業においてサポート専門家登録を行った専門家は、「様式第3号 技術サポート専門家登録更新申請書」及び「様式第4号 運営サポート専門家登録更新申請書」の提出に替えることができる。
 - 3 登録済みのサポート専門家等による推薦を得た場合には、指定した期間に関わらず申請できるものとする。

(登録の承認)

- 第10条 多面的機能発揮活動サポート専門家の登録は、JF全漁連及び全内漁連において実施し、次に掲げる事項について検討、審査する。なお、登録にあたり、必要に応じて水産庁または有識者等の助言を求めることとする。
- (1) 申請書の人材情報の登録に関すること。

図 2-2-1(2) サポート専門家登録実施規定(2)

(2) 登録された人材情報（以下、「登録情報」という。）の登録の取消し及び登録情報の抹消に関すること。

- 2 平成 25 年度～令和 3 年度に多面的機能発揮活動サポート専門家の登録申請を行った者については、前項の規定によらず、登録することができるものとする。

（登録及び通知、登録証の発行）

第 11 条 J F 全漁連会長及び全内漁連会長は、人材情報を登録すべきと認められた者について、速やかに登録申請書に基づき人材情報を登録するとともに、申請者に人材情報を登録した旨を「様式第 1 号の 2 技術サポート専門家登録決定通知書」及び「様式第 1 号の 3 運営サポート専門家登録決定通知書」により通知する。

2 J F 全漁連会長及び全内漁連会長は、前項の規定による登録を受けた者（以下「登録者」という。）について、サポート専門家登録証を発行する。

3 J F 全漁連会長及び全内漁連会長は、第 10 条第 1 項の規定において人材情報を登録すべきでない旨の決定を受けた者について、非登録通知書（様式第 1 号の 4）により、その理由を付して申請者に通知する。

（登録内容の変更）

第 12 条 登録者は、登録内容に変更が生じた場合は、すみやかに J F 全漁連会長及び全内漁連会長に登録情報変更申請書（以下、「変更申請書」という。）（様式第 2 号）により登録情報の変更を申請しなければならない。

（登録者の活用）

第 13 条 J F 全漁連及び全内漁連は、各活動組織の求めに応じ、地域特性や活動組織の要望を勘案した上で適切な人材を紹介し、登録者の活用に努めなければならない。

（登録の期間）

第 14 条 登録者の登録の期間は、第 11 条第 1 項の規定により登録をした日から 2023 年 3 月 22 日までとする。

（登録の更新）

第 15 条 前条の規定による登録者の登録の期間の満了時には、希望等に応じて登録の更新を行うことができる。

（登録の取消し）

第 16 条 J F 全漁連会長及び全内漁連会長は、登録制度の適正な運営に支障を来すと認められる場合、あるいは、登録者が第 8 条の規定による専門家の責務に反する行為等が認められる場合には、登録を取り消すことができる。

2 J F 全漁連会長及び全内漁連会長は、前項の規定により登録を取り消したときは、取消しを受けた者に対し、登録抹消通知書（様式第 5 号）により、その理由を付して通知しなければならない。

図 2-2-1(3) サポート専門家登録実施規定(3)

- 3 取消しを受けた者は、すみやかに専門家登録証を J F 全漁連会長もしくは全内漁連会長に返却しなければならない。

(個人情報の保護)

第 17 条 本規定の実施主体である J F 全漁連及び全内漁連は、個人情報の保護に関する法律に基づき、第 9 条に掲げる登録の申請によって得られた個人情報を、本規定が定める目的の範囲内で適切に管理、使用し、その他の目的で使用してはならない。

(庶務)

第 18 条 登録制度の庶務は、J F 全漁連及び全内漁連において処理する。

(その他)

第 19 条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、J F 全漁連会長及び全内漁連会長が別に定める。

附則

- 1 この規程は、2022 年 4 月 2 日から施行する。

図 2-2-1(4) サポート専門家登録実施規定(4)